

第八十二回 帝國議會 貴族院 買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案 特別委員會議事速記録第四號

昭和十八年二月十七日(水曜日)午後一時三十八分開會

○委員長(公爵島津忠承君) 是ヨリ開會致シマス、本委員會ニ付託サレマシタ昭和十八年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外九件ニ付キマシテ、初メニ當局ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(谷口恒二君) 本委員會ニ付託ニ相成リマシタ昭和十八年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外九件ニ付キマシテ其ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先ヅ昭和十八年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付キ説明致シマス、昭和十八年度歳入歳出總豫算竝ニ同年度歳入歳出總豫算追加第一號及第二號ニ計上セル經費ノ財源ノ一部ト致シマシテハ、現行ノ震災善後公債法及道路公債法ニ依ル公債ヲ發行致シマス外、歳入ノ不足ヲ補填スル爲三十一億八千六百三十萬圓ヲ限リ公債ノ發行ヲ要シマス

起債スルノ必要ガアルノデアリマス、次ニ從來ノ例ニ依レバ、昭和十八年度歳出豫算中若干ノ金額ハ翌年度ニ繰越サル、結果ニナルノデアラウト存ゼラレマス、然ル所其ノ繰越額ノ財源タル公債ハ必ズシモ之ヲ昭和十八年度内ニ於テ發行スルノ必要ハアリマセヌノデ、之ヲ其ノ翌年度ニ於テ發行シ得ルコトトスルノヲ適當ト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ營繕用品資金特別會計法案ニ付説明致シマス、大藏省營繕管財局ニ於キマシテ、其ノ司掌スル營繕事業ヲ經營致シマスニ付キマシテ、必要ナル營繕用品ハ所謂統制物資デアリマスル爲、之ノ入手ガ必ズシモ圓滑ニ參リマセヌ爲ニ、營繕事業ノ遂行ニ際シ、屢々其ノ圓滑ナル進捗ヲ害セラル、ノ狀況ナルニ願ミマシテ、營繕用品ヲ適宜ノ時期ニ購入シ、之ヲ貯藏加工シマシテ、隨時適切ニ本事業ノ需要ニ應ズルコトト致シマスル等ノ必要上、營繕用品資金ヲ設置スル必要ガアルノデアリマスルガ、其ノ歳入歳出ハ之ヲ一般ノ會計ト區別經理スルノ必要ガアリマスルノデ、特別會計設置ニ關スル本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ造幣局ノ資金ニ關スル法律案ニ付御説明申上ゲマス、造幣局ニ於ケル事業量ハ近時著シク増大致シテ參リマシテ、從來ノ造幣局据置運轉資本額四百萬圓ヲ以テシマシテハ、本事業ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト困難ナル狀況トナリマシタノデ、從來ノ据置運轉資本額ニ更ニ二千六百萬圓ヲ増加シテ、之ヲ三千萬圓ト致サントスルノデアリマス、而シテ此ノ

資本ノ増加ニ充當致シマスル財源ハ、造幣局資金ノ中ヨリ使用スルノヲ適當ト認メマシテ、昭和十八年度以降ニ於テ漸次ニ造幣局資金ノ中ヨリ所要ノ金額ヲ繰入レ得ルコトト致シタイノデアリマスガ、資本ノ増加及資金ノ使用ニ付キマシテハ法律ヲ制定シテ、其ノ途ヲ開クノ必要ガアルノデアリマス、次ニ同局ノ事業ノ擴張ニ伴ヒマスル廳舎、工場、其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ付キマシテハ、從來昭和十五年度ヨリ同十九年度ニ互ル繼續事業トシテ施行中デアリマシテ、其ノ經費總額二千二百五萬八千七百七十五圓ノ財源ハ、之ヲ造幣局資金ノ中ヨリ拂ヒ出シ、一般會計ニ繰入レ得ルコトト相成ツテ居ルノデアリマスルガ、今回前ニ申述ベマシタル通り、事業量ノ増大ニ伴ヒマシテ、更ニ造幣局ノ工場等ノ新設又ハ擴張スル等ノ必要ガ生ジマシタル爲之ヲ昭和十八年度ヨリ同二十年度ニ互ル繼續事業ト致シマシテ、之ニ關スル經費總額、六千七百七十九萬六千七百圓ヲ増加スルノ必要ガアリマス處、既定ノ繼續事業ニ付、節減致シマスル額、三萬六千五百九十六圓ヲ差引キマシテ、純増加額六千七百七十六萬四千四百圓ハ之ヲ造幣局資金ノ中ヨリ拂出シ、一般會計ニ繰入レ得ルコトト致ス等ノ必要ガアルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ昭和十五年法律第六十九號中改正法律案ニ付御説明申上ゲマス、大東亞戰爭ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債ノ發行ハ、現

行ノ昭和十五年法律第六十九號ニ依リ、昭和十五年度乃至同十七年度中ニ一時賜金賜與ノ發令アリタル者ニ對シ、交付スル場合ニ限ラレテ居リマスルガ、右公債ハ昭和十八年度ニ於テ、一時賜金賜與ノ發令アリタル者ニ對シテモ、之ヲ發行交付シ得ルコトトスルノ必要ガアリマスルノデ、昭和十五年法律第六十九號中改正ニ關スル本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ樺太内地行政一元化ニ伴フ、樺太特別會計ト、他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案ニ付御説明申上ゲマス、樺太内地行政一元化ニ依リ、樺太廳ニ於ケル氣象、海事、航空、通信、陸運等ニ關スル事務ハ、昭和十八年度ヨリソレゾレ文部省、逓信省、又ハ鐵道省ニ移管セララルコトト相成リ、之ニ伴ヒマシテ通信事業及鐵道事業所屬ノ財產ハ、之ヲ通信事業特別會計、又ハ帝國鐵道特別會計ノ資本ニ編入致シマスルト共ニ、樺太事業公債法ニ依リ、從來樺太ニ於ケル通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲、發行致シマシタ公債等ヲ兩合通信事業、特別會計、又ハ帝國鐵道特別會計ノ負擔ト致シマスル外、樺太廳特別會計ト一般會、計通信事業特別會計、帝國鐵道特別會計等トノ間ニ於テ會計ニ關スル種々ナル關涉事項ヲ生ジマスルノデ、是ガ處理上ノ必要ニ基キマシテ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ昭和十二年法律第八十號改正法律案ニ付御説明申上ゲマス、過般實施ノ行政簡素化ニ依リ、從來厚生大臣ノ管理ニ屬シテ居リマシタ簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ハ、之ヲ

遞信大臣ノ管理ニ屬セシムルコトトナリマシタノト、遞信省ノ遞信局及郵便局ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金事務ノ管理ニ關スル事務ハ、之ヲ遞信大臣ノ管理ニ屬スル簡易保險局ニ於テ取扱フコトト相成リマシタノト、尙又遞信局及郵便局ニ於ケル、簡易生命保險及郵便年金事務ノ取扱ニ關シ生ズル收入ハ、之ヲ事務取扱ノ便宜上、通信事業特別會計ノ所屬ト致シマスル等トノ爲、昭和十二年法律第八十號ヲ改正スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案ニ付御説明申上ゲマス、朝鮮總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費タル、鐵道建設及改良費、道路修築改良費及港灣修築改良費等ノ追加額其ノ他五億五千九百六十餘萬圓ニ付キマシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマシタル處、道路修築改良費等ノ既定額ノ内昭和十七年度ニ於テ公債財源ニ依ル豫定ノモノニ決算上不用ト爲スベキモノ等ガ四百三十餘萬圓アリマス爲、差引五億五千五百三十萬圓ガ現行ノ朝鮮事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、次ニ朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法案ニ付キ説明申上ゲマス、今回新タニ朝鮮總督府ニ於テ郵便年金事業ヲ經營スルコトト相成リマシタノニ伴ヒマシテ、之ニ關スル歳入歳出ヲ特別ニ經理スル必要ガアルノデアリマスルガ、經理事務ノ簡捷ヲ圖リマス爲ニ、現ニ同總督府ニ於テ經營致シテ居リマス簡易生命保險事業ノ歳入歳出ト併セ經理スルノガ適當ト

認メラレルノデアリマス、而シテ之ガ爲ニハ朝鮮簡易生命保險特別會計ヲ廢止シ、新タニ簡易生命保險及郵便年金ノ兩事業ヲ通ズル一特別會計ヲ設置スルノ必要ガアリマスルノデ、之ニ關スル本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、次ニ臺灣事業公債法中改正法律案ニ付キ説明申上ゲマス、臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ追加シタル新高港第二期工事施行ニ要スル經費千五百五十萬圓、竝ニ既定繼續費鐵道改良費及大甲溪開發事業費ノ追加額千九百二十餘萬圓ノ内七百五十餘萬圓ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キマシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマシタル處、鐵道改良費等ノ既定額ノ内、昭和十七年度ニ於テ公債財源ニ依ル豫定ノモノニ決算上不用ト爲スベキモノ等ガ八百餘萬圓アリマス爲、差引千五百十萬圓ガ現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、次ニ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ニ付キ説明致シマス、臺灣官設鐵道用品資金ハ、現行ノ臺灣官設鐵道用品資金會計法第二條ノ規定ニ依リマスレバ、二百萬圓ト相成ツテ居ルノデアリマスガ、臺灣ニ於ケル鐵道及自動車交通事業ノ事業量ノ増大ニ伴ヒマシテ、臺灣官設鐵道用品資金特別會計ニ於ケル歳入歳出モ亦逐年増加致シテ參リマシタ爲、從來ノ資金額ヲ以テシマシテハ、其ノ十分ナル機能ヲ發揮スルコト困難ナル狀況ト相成リマシタノデ、本資金ノ法定額ヲ五百萬圓ニ増額シ、其ノ増加額三百萬圓ハ、臺灣ニ於ケル鐵道及自動車交通

事業ノ狀況ニ應ジ、財政ノ許容スル所ニ從ヒマシテ、漸次臺灣總督府特別會計ヨリ之ヲ繰入ル、コトトシ、同事業ノ圓滑ナル遂行ヲ圖ルコトト致シマス爲、之ニ關スル本法律案ヲ提出致シタ次第アリマス、以上十件ノ法律案ニ付キマシテハ、何卒御審議ノ上御贊成ノ程ヲ御懇ヒ致シマス

○委員長(公爵島津忠承君) 此ノ際御諮リ致シマスガ、御質疑ハ次回カラ願フコトニ致シマシテ、本日ハ此ノ程度デ散會致シタイト思ヒマス、御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(公爵島津忠承君) 御異議ナイト認メマス、今日ハ是ニテ散會致シマス、次回ハ明後日午前十時ヨリ開會致シマス

午後一時五十五分散會  
出席者左ノ如シ  
委員長 公爵島津 忠承君  
副委員長 子爵秋田 重季君  
委員 侯爵筑波 藤麿君  
伯爵大木 喜福君  
子爵安藤 信昭君  
光行 次郎君  
中川 健藏君  
大野綠 一郎君  
男爵飯田精太郎君  
黑崎 定三君  
男爵神山 嘉瑞君

政府委員  
朝鮮總督府政務總監 田中 武雄君  
臺灣總督府財務局長 中嶋 一郎君  
樺太廳長官 小河 正儀君  
大藏次官 谷口 恒二君  
大藏省營繕管財局長 濱田 幸雄君

大藏書記官 松田 一隆君  
加藤 八郎君